

## 麦類 赤かび病 情報

近年、麦類の赤かび病による被害粒混入基準が厳しくなりました。実需者から高い品質の麦生産が求められています。

麦類の赤かび病は、開花期から2週間以内に雨が多いと発病が多くなります。防除最適期は開花初期～開花最盛期です。

本年の小麦「農林61号」の出穂期は、平年に比べ4,5日遅いと予想されています。開花は出穂期からおよそ1週間後です。

表1 小麦「農林61号」の出穂期（農業総合研究所作物部調査）

	本年予測	平年
出穂期	4月30日	4月26日

は種日：11月10日

場 所：京都府農業総合研究所（亀岡市）

なお、向こう1か月の気象予報では、気温は平年並または高く、降水量、日照時間は共に平年並と予想されています（大阪管区气象台、4月14日発表）。

### 防除上の注意事項

- (1) 防除最適期は開花初期～開花最盛期です。  
本病の防除薬剤は予防効果が主であるため、散布時期が遅れないよう注意してください。
- (2) 開花期から2週間以内に雨が多いと発病が多くなります。開花は出穂期からおよそ1週間後です。  
出穂期は、品種、播種時期、栽培条件で異なるため、出穂や開花状況をよく観察した上で防除適期を判断してください。
- (3) 六条大麦は特に発生しやすいです。
- (4) 赤かび病菌は人畜に作用性の強いカビ毒をつくります。

### 農薬使用の注意事項

- (1) 本病防除の主要薬剤であるチオファネートメチル（商品名：トップジンM）は、麦類での使用回数が**出穂期以降1回**に、また、大麦では使用時期が**収穫30日前まで**に変更されているので注意してください。
- (2) 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準や注意事項を遵守してください。
- (3) 農薬を散布する場合は、飛散（ドリフト）防止に十分に気をつけましょう。

表2 チオファネートメチル（商品名：トップジンM）の使用時期と使用回数

（小麦の赤かび病）

薬剤名（商品名）	使用量・濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
トップジンM粉剤	4 kg/10a	収穫	3回 <b>（出穂期以降 1回以内）</b>	散布
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	14日前まで		
トップジンMゾル	4倍、0.8L/10a	収穫 21日前まで		無人ヘリコプターによる散布

（大麦の赤かび病）

薬剤名（商品名）	使用量・濃度	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
トップジンM粉剤	4 kg/10a	<b>収穫 30日前まで</b>	3回 <b>（出穂期以降 1回以内）</b>	散布
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍			
トップジンMゾル	4倍、0.8L/10a			無人ヘリコプターによる散布